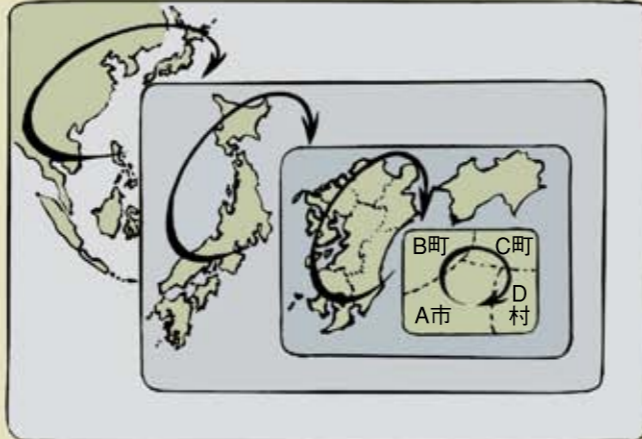


地域発、循環型社会づくり

循環型社会を実現するために指標を設けて数値目標を定めるほかにも



「地域循環圏」というものを構築することが提唱されている



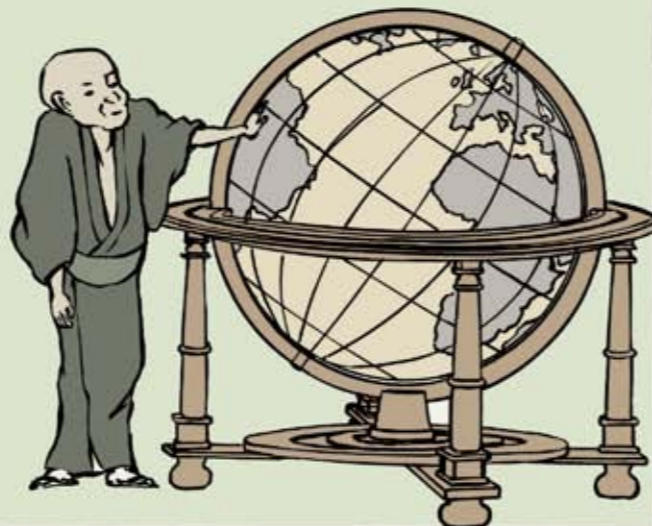
地域循環圏の構築とは地域の特性や循環資源の性質などに応じて、最適な規模での循環を作り出すことだそうじゃ

例えば、腐敗しやすい生ごみなどの循環資源はその地域の中において循環させる



再利用に高度な処理技術が必要な循環資源は、優れた処理施設のある場所を中心にして、広い範囲で循環させる…といった具合じゃな

この循環を資源の性質に応じて、コミュニティ、地域、ブロック圏(県など)、全国、そして国際的なレベル、と様々な範囲で構築していくことで、結果的にきめ細かい循環社会が効果的に形成されるわけじゃ



◆循環型社会形成のための地域循環圏イメージ

農山漁村	バイオマス系循環資源が肥飼料に利用され、生産された農畜産物が地域内で消費される循環を形成。
中小都市	都市部から排出されるバイオマス系資源を農村部に運搬し肥飼料化。それらを使って生産された農畜産物が都市部において消費される。
大都市	徹底した資源回収、資源化できないものは燃焼施設における減量化及びその後の熱回収が大規模かつ効率的に行われる。
日本全国	循環の中心の産業集積地において、生産活動に必要な資源投入量の抑制が徹底されるとともに、広域的に循環資源が収集され、規模の経済性と集積内の相互連携により効率的な循環資源の利用が進む。
国際規模	各国の特性を活かした循環資源の利用が促進され、日本では、他国ではリサイクル困難な、高度なリサイクル技術を要する循環資源が活用される。

◆日本の志布志市における地域循環圏の例

鹿児島県志布志市では、市内に焼却炉がなく全量埋め立て処理することになるため、28品目にわたる分別回収の徹底によりごみの減量化に取り組み、その結果、埋め立て処分量の8割削減を達成しました。

また、生ごみはたい肥として活用し、ひまわりを栽培。そのひまわりからひまわり油をつくるという「サンサンひまわりプラン」を行っています。

